

ちくせい 元気アップ 大作戦 進行中

いま、多くの市町村が、人口減少や景気低迷による財政状況の悪化など厳しい状況に直面しています。こうした中で、地域経済の活性化や交流人口の増加を図るため、地域固有の自然や歴史、観光、食、文化などの「地域資源」を活用して「まちおこし」を進めようとすることが注目を集めています。



「B-1 グランプリ」B級ご当地グルメの日本一を決める大会。今年9月厚木市で開催された第5回大会には43万人もの来場者がありました。

地域の人が、自分たちが住む地域に誇りと愛着を持ちながら、共に汗を流して、まちの魅力を発信していこうとするものです。

このような取り組みに対して、総務省では、まちおこしを進めようとする自治体に、優れたノウハウを持つ人材を提供する「地域力創造アドバイザー事業」を平成20年度から展開しています。

地域再生の第一人者 藤崎先生が本市を指導

今年度、市ではこの地域力創造アドバイザー事業に応募し、全国13市町村の一つに採択されました。



本市に派遣された民間アドバイザーは、(株)地域活性化ランニング代表取締役の藤崎慎一先生です。藤崎先生はこれまでにも「宮崎青島再生会議」や「伊勢志摩再生プロジェクト」、「富士宮観光戦略プロジェクト」、「ロケ誘致による

月に1回のペースで開催されているワークショップ。藤崎先生のリードで、25人のメンバーが、さまざまな角度から筑西市を検証し、まちの活性化に向けた議論が交わされています。



まちづくり」など地域活性化事業に取り組んできました。藤崎先生は「まちづくりはひとつづくり」をキーワードに「わか者、ばか者、よそ者」を活用した住民参加型の地域振興策を助言・指導しています。

ワークショップではグループごとに集約された意見が発表されず。毎回、まちの新たな発見にメンバーの意識も高まっています。

市民メンバー25人が熱心な議論を展開中!!

また、先生とともに活動するワークショップのメンバーも集まりました。さまざまな職業を持つ市民25人が地域の活性化に向け活動を始めています。これまで開催したワークショップでは「筑西市の強みと弱み」を整理し「市内で観光ツアーを組むとしたらどこを案内するか」など魅力と可能性を探り、「筑西市がめざすまちづくりの方向性」を議論してきました。

ワークショップは、今年度7回開催され「元気な筑西市」に向け、具体的な行動目標を設定します。さらに、メンバーによる実践活動が展開されるものと期待しています。

本紙では、プロジェクトの進捗やメンバーの意見などを今後紹介していく予定です。

地域活性化事業「ちくせい元気アップ大作戦」について、市民のみなさんのご意見をお待ちしています。

企画課企画グループ
(内線 480、490)

地域の活性化には、自分たちで考え、行動し、責任を取る覚悟が必要です。

地域力創造アドバイザーとして、今年度筑西市に派遣された藤崎慎一先生に、本市の印象や地域活性化を成功させるためのポイントについてお聞きしました。

— まず始めに筑西市の印象をお聞かせください。

印象がないのが印象です。これは、筑西市に限らず、どこの地方都市にも見られることです。特にこのまちは、東京からも近く、平坦な地形で自然環境にも恵まれていますから、みなさんのんびりしているんじゃないでしょうか。

— 今回のプロジェクトを「ちくせい元気アップ大作戦」と名付けていますが、先生が考える元気なまちとは？

市民が自分たちの責任で自立しているまちです。歴史に例えれば、16世紀に繁栄した大坂の堺さかいのように、商人たち

が時の権力者におもねることなく自分たちの力で元気なまちを築き上げた。今の時代も全く同じで、自分たちで考え、自分たちで行動し、自分たちで責任を取ることが大切です。行政が何とかしてくれという考え方は時代遅れです。

— 市民によるワーキングチームと先生の役割分担は？

私は、地域を元気にするために「わか者、ばか者、よそ者」の三者が必要不可欠だと考えています。活動に積極的に取り組む「わか者」、地元で生まれ育って心からまちを愛する「ばか者」、地元とは縁のない第三者が「よそ者」です。地域活性化の主役はもちろん市民のみなさんです。私は「よそ者」として、このま

ちの課題を整理し、地域の「強み」を気づかせるアドバイザーをするだけです。

— 最後に、市民へのメッセージをお願いします。

これから、ワーキングチームのメンバーがさまざまなプロジェクトを仕掛けていくことになるでしょう。メンバーは自分の仕事を休んでまで「このまちを元気にしたい」と参加し、汗を流しています。プロジェクトが進むと賛同者も増えますが、新たな採め事の種が生じることもあります。メンバーには「出る杭ぐい」になつて頑張ってもらいたいですし、

市民のみなさんには彼らの活動を長い目で温かく見守ってほしいですね。



藤崎さんが編集長を務めている雑誌『ロケーションジャパン』。国内で唯一のロケ地情報誌として読者に人気です。
(株)地域活性プランニング発行

地域力創造アドバイザー 藤崎 慎一 先生



藤崎 慎一 (ふじさき しんいち) 氏

(株)地域活性プランニング代表取締役。中央大学卒後(株)リクルート入社。地域活性事業部商品開発マネージャーとして、観光振興をはじめ、雇用・定住・教育など地域活性に関する企画・プロデュースに従事。その実績から、中央官庁、都道府県などのさまざまな委員を歴任。企業コンサルタントを主業務とする一方、そのノウハウで全国各地の地域活性事業を实践。